

# デジタル時代におけるスポーツ視聴

## Viewing sport in the digital age

1K04B182-1

原田 基貴

指導教員

主査 リー・トンプソン先生

副査 宮内孝知先生

### 1、動機と目的

インターネットの普及と DVD レコーダーや携帯端末などの技術進化によって、テレビに限らずパソコンでも映像を楽しめる環境が整いつつある現在の日本。そんなデジタル化の中で、私たち国民の生活スタイルも大きく変わろうとしているが、

スポーツの視聴スタイルも変化しているのも事実である。

これまでのスポーツ映像は大半がテレビで放送されていたが、ユーチューブなどの動画共有サイトの登場によって、パソコンでもスポーツ映像を視聴することが可能になり、今後のスポーツとメディア、そして視聴者でありユーザーであるファンの結びつきが変わるのではないかと考えた事が、この研究の目的である。

### 2、研究方法

まず、日本のデジタル環境を幅広く見る事で課題や問題点を探り、デジタル対応に特徴のあるイギリスと比較した。そこから、日本の社会構造にはびこる状況を把握し、それらはスポーツにおいても当てはまるのかを検証した。イギリスやドイツにみられるスポーツが生活の根付いている背景から、なぜ日本ではスポーツが浸透しなかったのかを探った。

スポーツ本来のあるべき姿を再確認し、社会にスポーツを根付かせるためには、どんな努力が必要なのか考え、世界で最も成功しているスポーツ組織である NFL の仕組み作りを解剖し、また、NFL フィルムスの制作体制と歴史について資料を集めた。さらに、今後、スポーツと地域との結びつきが強まると期待できるメディアであるケーブルテレビ二触れ、その地域スポーツ振興の可能性を調べた。

最後に、デジタル時代における、スポーツと接する環境の状況を、実例を挙げながら論じてみる事にした。これらの方法で、最終的に、スポーツ視聴のスタイルは今後どうなっていくのかを、自分なりの視点で研究してみた。

### 3、各章の要約

#### <第一章>

はじめに、光ファイバー網やワンセグ放送、動画共有サイト、DVD レコーダーなど、日本の通信と放送の

垣根がなくなりつつあり、環境が整ってきている現状を調べた。それに伴って、国民の生活スタイルも変化を見せ始め、近い将来、スポーツ視聴にも大きな変化が出てくる事が予想されると感じた。

#### <第二章>

制作システムと地上波デジタルを紐解くことで、日本全体にはびこっている、中央主導や組織中心の社会構造を見る事ができた。サービスを受ける側の視聴者は基本的に無関心で知識を身につけようとしていないようだ。そこで、制作権利をより個人に分散させることで制作環境が良くなり、番組の質の向上につながる。また、国民それぞれが関心を持ち、デジタルのメリットを理解する事が重要であると理解できた。

#### <第三章>

イギリスにおける地方分権がスポーツ本来の魅力を引き出し、日本の中央集権の概念がヒーロー主義を生み出したと分析できた。そして、日本に合ったスポーツ環境を整えていく上で、地域に密着したスポーツクラブが手本となると説いた。

#### <第四章>

スポーツをハードとソフトの両面で扱う際、NFL を代表例として挙げ、NFL という世界一のスポーツ組織が、多くのファンを惹き付けるために、様々な仕組み作りの努力を地域社会に根ざして行っていることを検証した。さらに、NFL フィルムスが、アメフトの魅力を伝えるため NFL と協力し、映像の質を高めるため徹底的にこだわり抜いている姿には、スポーツへの情熱が見られた。

#### <第五章>

多チャンネルと地域密着性のメディアであるケーブルテレビが、地域スポーツ振興に関わっている現状とその可能性について論じた。自主放送の問題点を通じて、ケーブルテレビがスポーツ番組を制作する課題と期待が発見できたと感じている。

#### <第六章>

まとめとして、比較的新しいスポーツとメディア、そしてユーザーであるファンの結びつきを通して、今後の日本におけるデジタル時代を推測し、新しいスポーツとメディア、そしてファンの付き合い方を提案するに至った。デジタル化にスポーツ団体のすべき努力と、視聴者であるファンがデジタルを使いこなすことで生まれる現象を推測した。